

# 玉川上水のあれこれ

1. 歴史

2. 桜か、森か

3. 名勝とはなにか

4. そして問題はつづく

# 歴史(1)

1653 43km導水路素掘り(玉川兄弟)

1670 拡幅、築堤。松、杉を植樹(堤の保護)

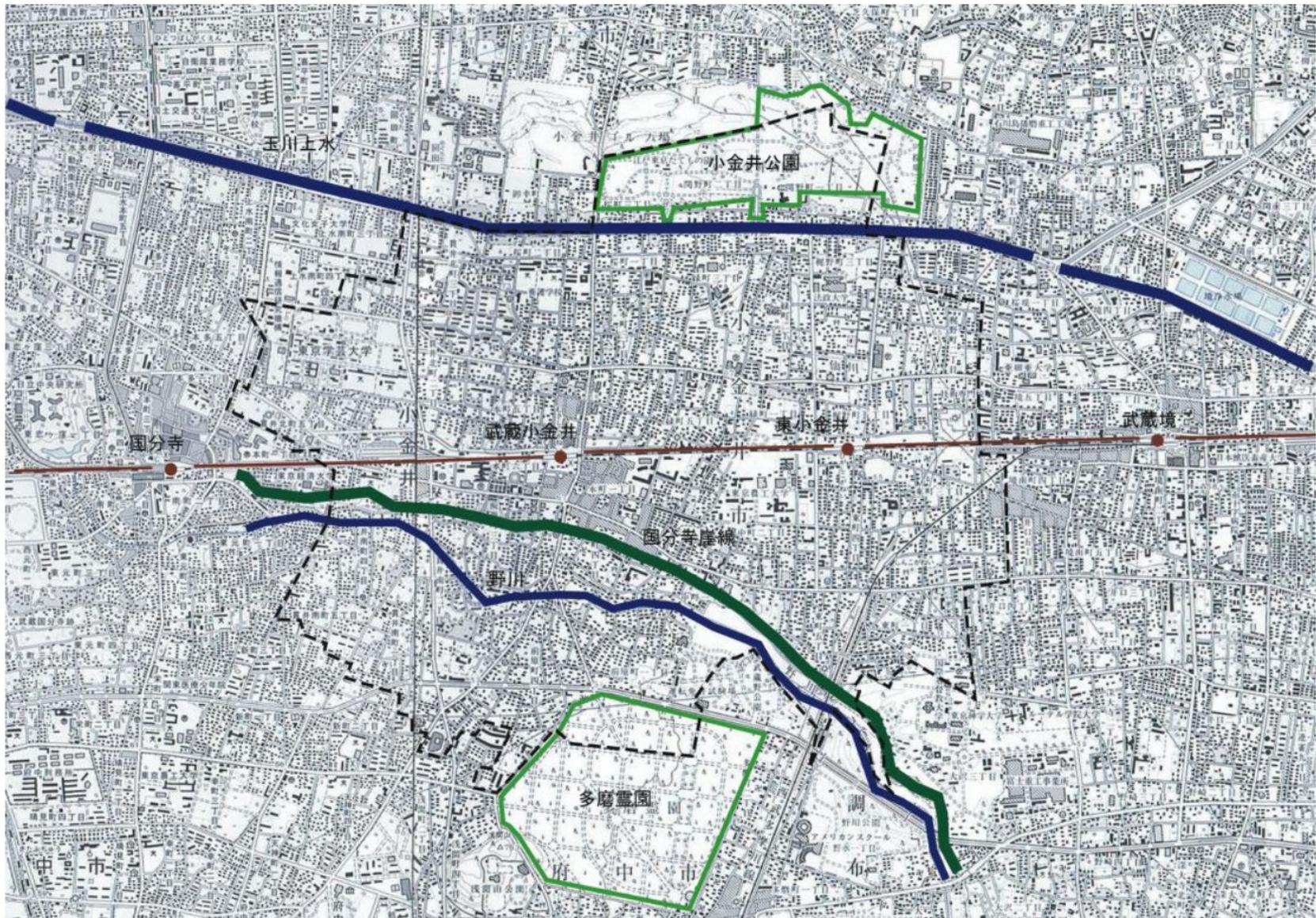
1741~1744 小金井橋を中心とする  
6kmを桜に植え替え(川崎平右衛門)

1800年代

上水沿いの農民たちは花見客に座敷を貸したり  
茶店を出したりして商売も盛んになる  
(小平市、小金井市HP)



玉川上水・小金井桜整備活用計画(小金井市2010)p.3

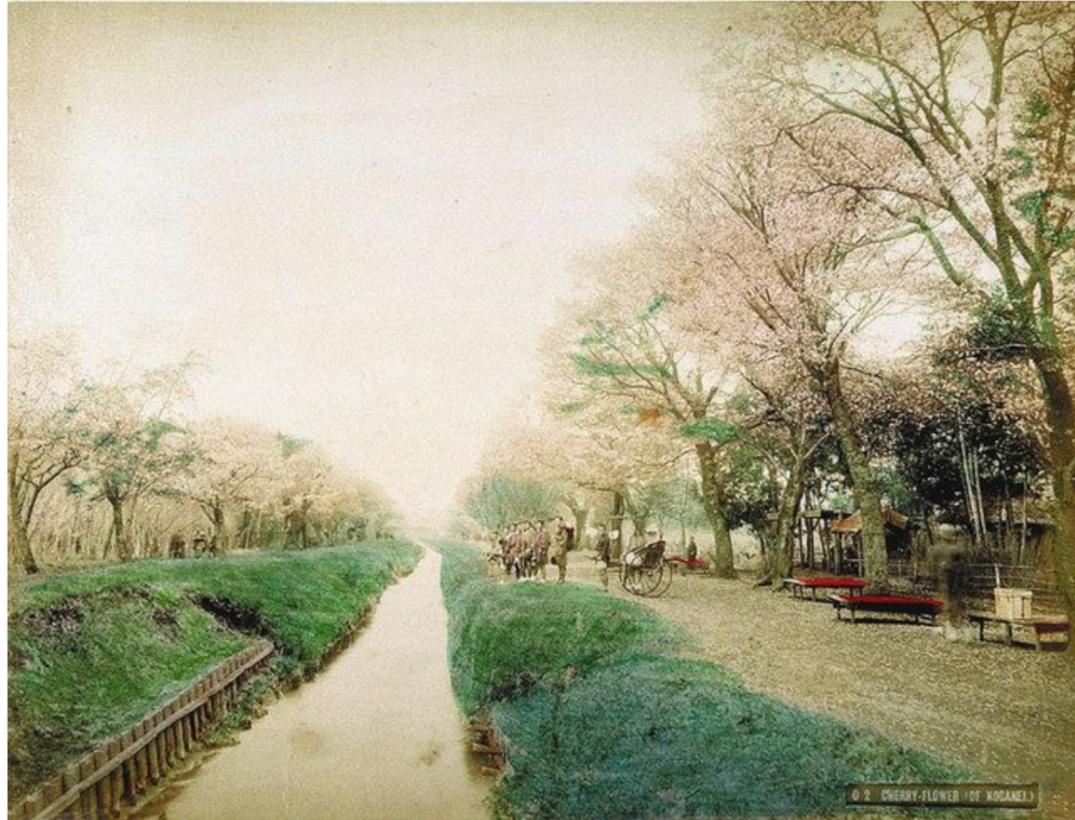


# 浮世絵(小金井橋)



歌川広重『江戸近郊八景之内 小金井橋夕照』

# 1897頃(小金井橋)



明治30年ごろ撮影された「小金井橋の景」。手彩色されている＝小金井市提供

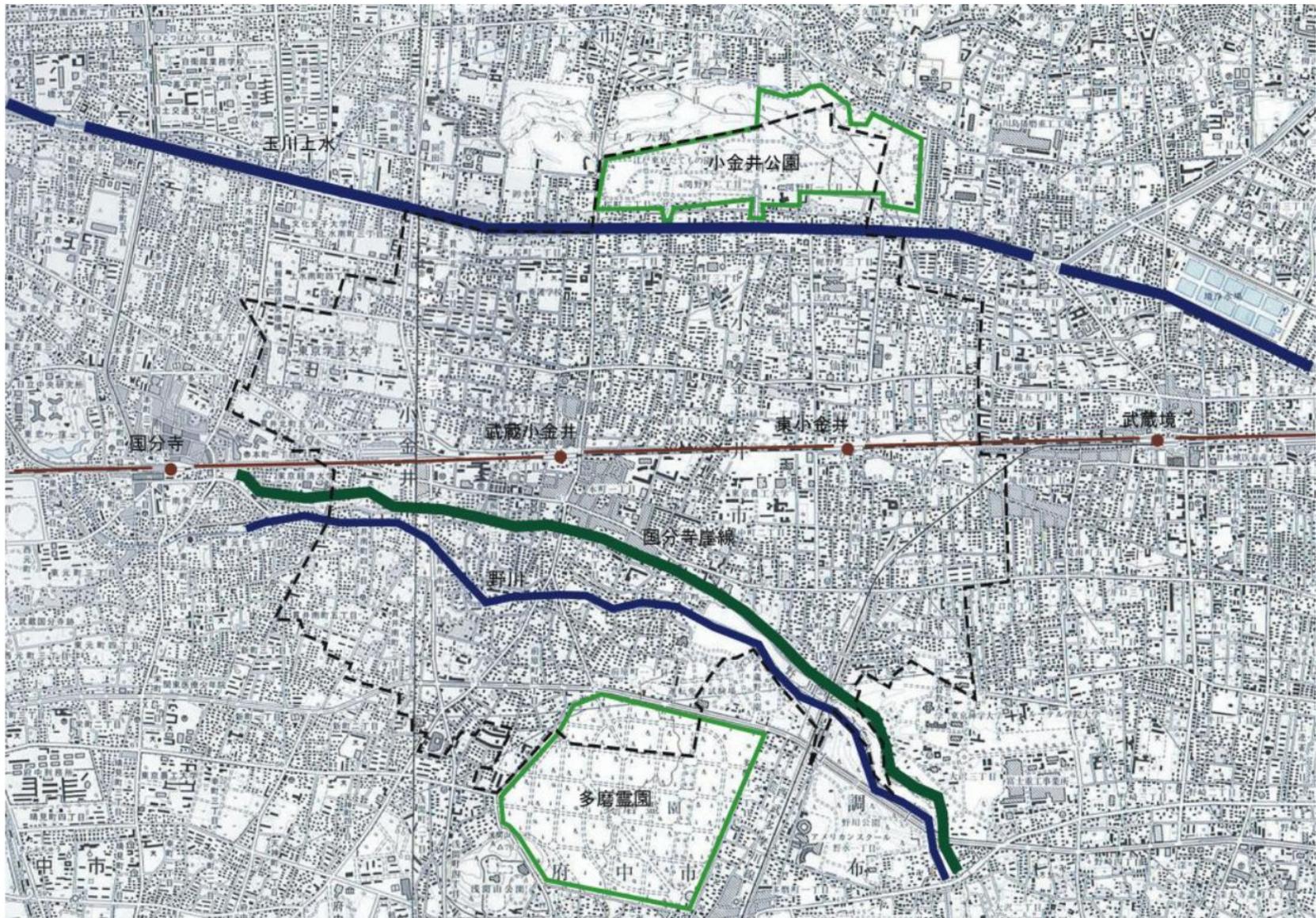
# 1906 (推定小金井橋)



挿絵『風俗画報小金井名所図会』

# 歴史(2)

- 1911 史跡名勝天然記念物保存協会設立
- 1919 史跡名勝天然記念物保存法公布
- 1924 名勝小金井(サクラ)指定  
(小平村～小金井村～武蔵野村の6km)
- 1950 史跡名勝天然記念物保存法廃止  
→文化財保護法(小平、小金井、武蔵野、西東京)
- 1954 都立小金井公園開園(桜植樹)
- 1962 風致地区指定(都・市条例)  
(小平市全域と小金井市の上流側半分)



# 1956 (右岸からの風景)



観光写真「春爛漫」昭和31年(1956)

# 歴史(3)

- 1965 小平監視所から下流の流れ途絶える  
(淀橋浄水場廃止→東村山浄水場に導水)
- 1965～ 道路化、鉄道化、水道管化(遊歩道)計画
- 1976 史跡指定合意(都と文化庁)  
「岸辺の雑木林ともども永久保存する」  
(1976.4.8 毎日新聞記事)
- ～玉川上水の土地が未登記。都と国の所有権争い～
- 1986 清流復活事業により流れ復活(再生水)

# 歴史(4)

- 1999 歴史環境保全地域指定(開渠区間30km)  
「歴史的遺産と一体となった自然の存する地域」  
(都条例)
- 2003 史跡指定(開渠区間30km)(文化財保護法)
- 2009~2019 史跡玉川上水整備活用計画  
(都水道局)
- 2010~2019 玉川上水・小金井桜整備活用計画  
(小金井市)



玉川上水・小金井桜整備活用計画(小金井市2010)p. 3

# 桜か、森か

錦城高校映画研究部 制作 ドキュメンタリー

第68回NHK杯全国高校放送コンテスト  
テレビドキュメント部門 制作奨励賞受賞作品  
(2021年)

上映時間約8分

# 名勝とはなにか(1)

「国粹ヲ保チ、邦土ノ特質ヲ存」するために保存が必要と主張  
(三好学)→愛郷心、愛国心の発揚といった国家施策として再  
編。史跡名勝天然記念物保存運動の中に位置付けられてゆく  
(小金井市史 2019年発行)

## 史跡名勝天然記念物保存協会の設立(1911)

【目的】史跡及天然記念物ヲ研究シ、其ノ保存方法  
ヲ講ジ、且之ニ関スル思想ノ普及ヲ図リ、  
国体ノ精華ヲ発揚スル。

# 名勝とはなにか(2)

「教育勅語」(1890年)

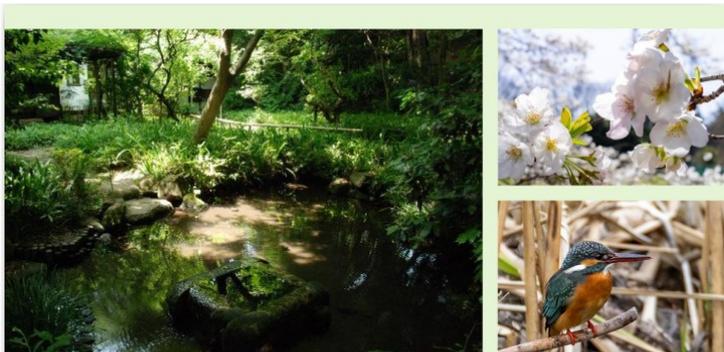
朕(ちん)惟フニ(おもうに)我カ(わが)皇祖皇宗(こうそこう  
そう)國ヲ(くにを)肇ムルコト(はじむること)宏遠ニ(こうえん  
に)德ヲ樹ツルコト(たつること)深厚ナリ(しんこうなり)  
我カ(わが)臣民(しんみん)克ク(よく)忠ニ(ちゅうに)克ク  
(よく)孝ニ(こうに)億兆(おくちょう)心ヲ一ニシテ(しんをい  
つにして)世世(よよ)厥ノ(その)美ヲ(びを)濟セルハ(なせ  
るは)此レ(これ)我カ**國體(こくたい)**ノ**精華**ニシテ教育ノ淵  
源(えんげん)亦(また)實ニ(じつに)此ニ(ここに)存ス(ぞん  
す) ……(以下略)

# 名勝とはなにか(3)

「国体の本義」(1937年 文部省編纂)

大日本帝國は、萬世一系の天皇皇祖の神勅を奉じて永遠にこれを統治し給ふ。これ、我が萬古不易の國體である。而してこの大義に基づき、一大家族國家として億兆一心聖旨を奉體して、克く忠孝の美德を發揮する。これ、我が**國體の精華**とするところである。

# そして問題はつづく(1)



## 小金井市 みどりの 基本計画



令和3年3月  
小金井市

## 第2章

## 私たちが目指すみどり

### 1 みどりの将来像

#### みんなで育み、つなげるみどりの小金井

みどりは公園や学校、道路などの公共施設のほかに、も社寺や農地、事業所の敷地や住宅の庭など様々な場所にあります。このため、市、事業者、市民がみんなで育む(守ったり、つくったり、いかす)ことが大切です。

また、「つなげる」という言葉には、みんなでつなげる、次の世代につなげる、生物の移動をつなげる、活用につなげるといった意味を込めています。



**みんなでみどりを育み、みどりと人をつなげることで、  
住宅都市にふさわしい質の高いみどりがあふれるまちを目指します。**

みどりは多様な機能を有しているため、これらを保全し、活用することで、持続可能で魅力ある社会の形成を図ることができます。

一方で、本市におけるみどりの量は減少しており、民有地も含めたみどりの保全・創出に市・事業者・市民が一丸となって取り組む必要があります。また、みどりの量を確保するだけでなく、住宅都市である本市のみどりは、安全で快適な場所として存在する必要があります。そのためには、都市の中にあるみどりの在り方を見直し、定期的に人の手を加え、適正に管理する必要があります。また、住宅都市のみどりは、人との接点があるからこそ、その価値が高まります。

本市にふさわしいみどりは、安全で快適な場所として、多世代の人がふれあい、生物多様性<sup>8</sup>を保全しながら、自然環境を学ぶ場としても活用され、市民が地域で暮らす楽しみを見つづけることができる空間です。

市・事業者・市民全員がみどりの価値を認識し、みんなが協力して、一人ひとりがみどりの保全や創出に取り組み、適切に人の手を加えることにより本市にふさわしいみどりを育み、つなげることで持続可能な社会をめざします。

<sup>8</sup> 生物多様性▶種・遺伝子・生態系レベルなどで多くの生物種が存在すること。様々な生物がいる「種の多様性」だけでなく、同じ種の中の「遺伝子の多様性」や自然生態系を構成する動物・植物・微生物などがおりなす「生態系の多様性」も含む包摂的な概念。

# そして問題はつづく(2)

「みどりの基本計画」パブリックコメント(2021.3.26)

(意見)

玉川上水の樹木剪定は必要最小限にとどめるべき

(回答)

みどりが多ければいいのではなく、昭和40年代前の玉川上水がもつ風景が**本来あるべき姿**



観光写真「春爛漫」昭和31年(1956)



明治30年ごろ撮影された「小金井橋の景」。手彩色されている＝小金井市提供



皆伐区間 夏季(小金井側 2021.9.20-1)



皆伐区間 夏季(小金井側 2021.9.20-2)



皆伐区間 夏季(小金井側 2021.9.20-3)



皆伐区間 夏季(小金井側 2021.9.20-4)



剪定区間 夏季(小平側 2021.9.20-1)



剪定区間 夏季(小平側 2021.9.20-2)



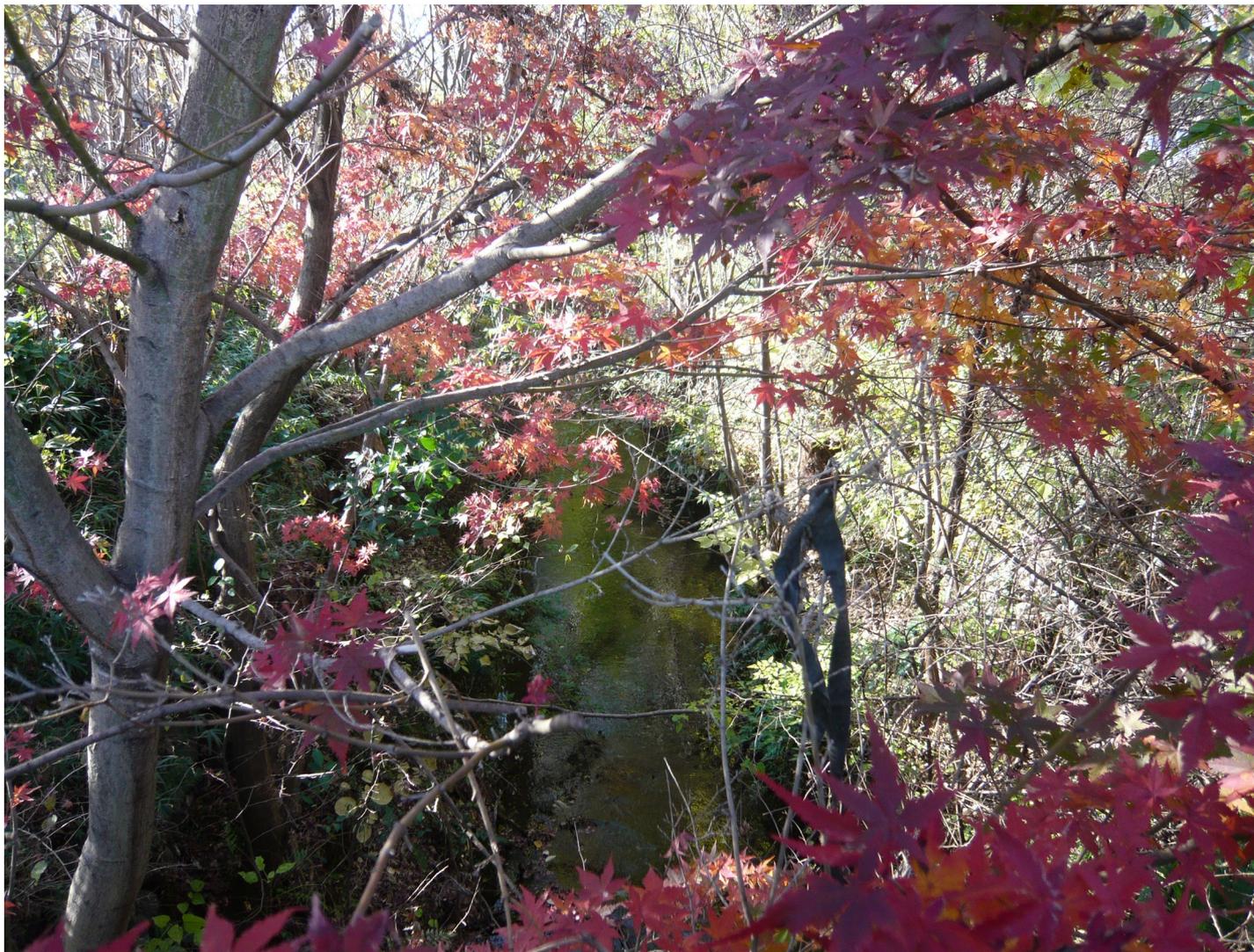
剪定区間 夏季(小平側 2021.9.20-3)



皆伐区間 冬期(小金井側 2021.12.5-1)

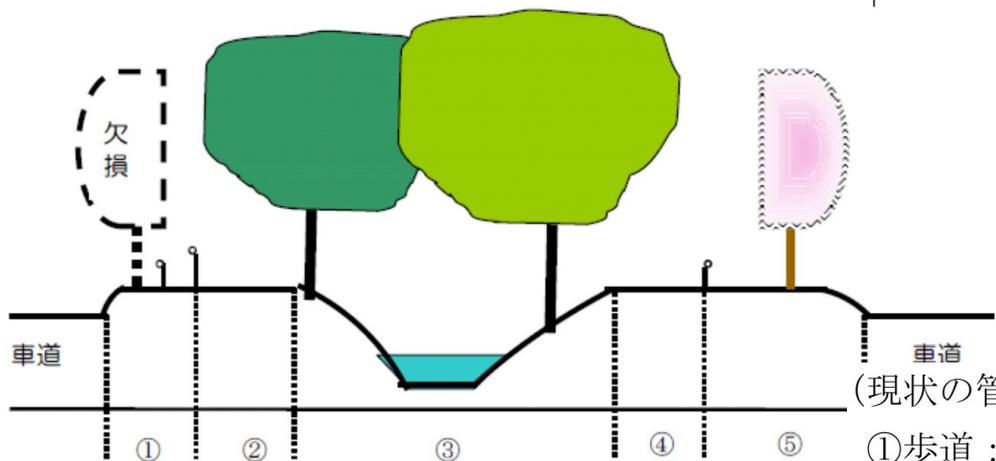
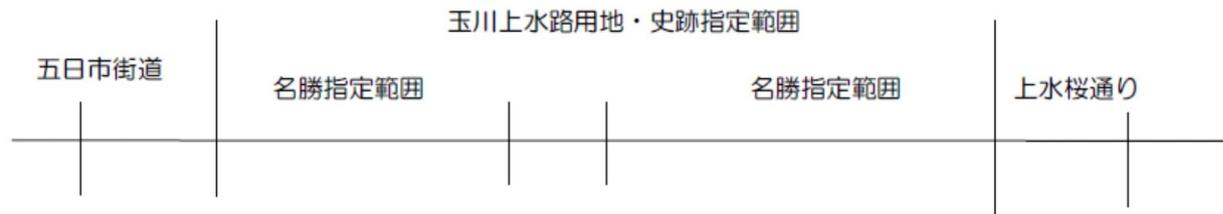


皆伐区間 冬期(小金井側 2021.12.5-2)



剪定区間 冬期(小平側 2021.12.5)

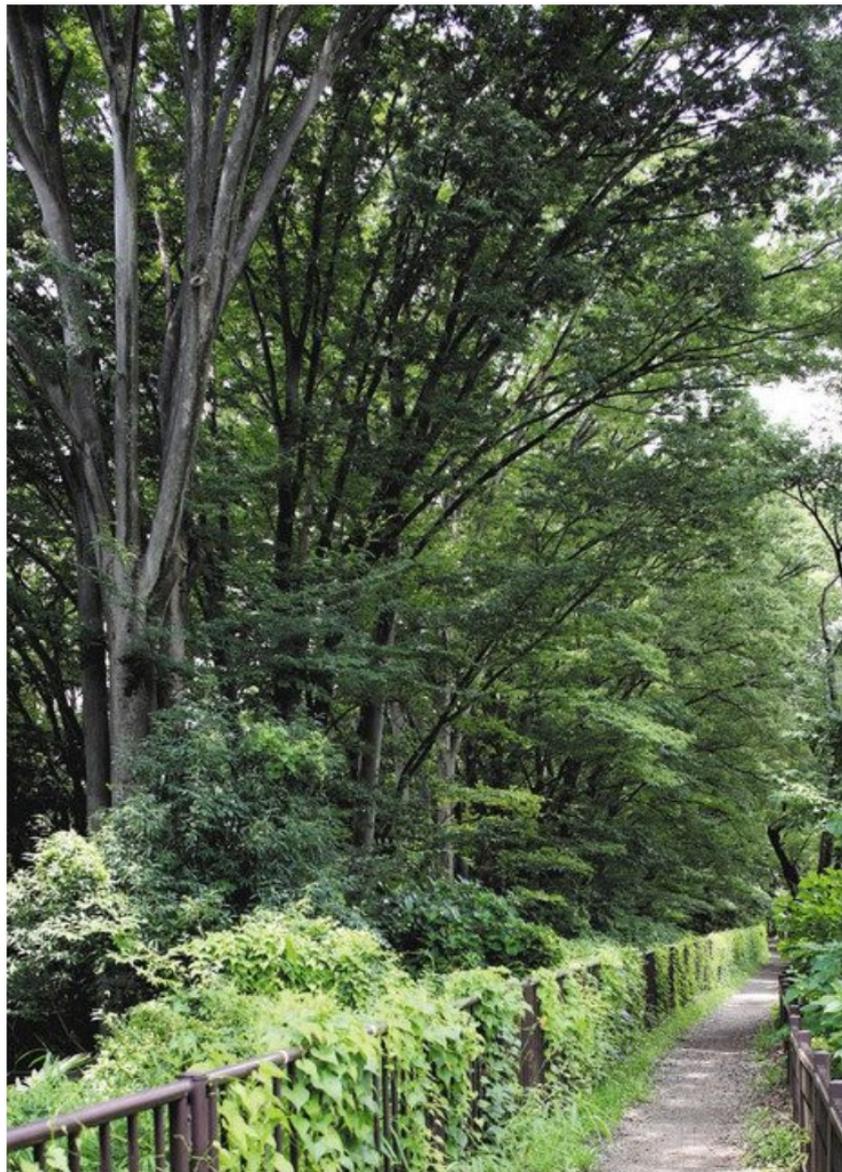
# そして問題はつづく(3)



(現状の管理区分)

## ■管理区分図

- ①歩道：東京都建設局北多摩南部建設事務所(歩道)・小金井市(植栽)
  - ②柵内の堤部：東京都水道局(草地・樹木)
  - ③法面・水路：東京都水道局(草地・樹木・水路)
  - ④柵内の堤部：都水道局(草地・サクラ以外の樹木)
  - ⑤歩道：小金井市(緑道・フェンス・街灯・植栽)
- 名勝指定地のサクラ：東京都教育庁



在りし日の  
玉川上水の  
雑木たちよ

(2019.7 東京新聞掲載写真)